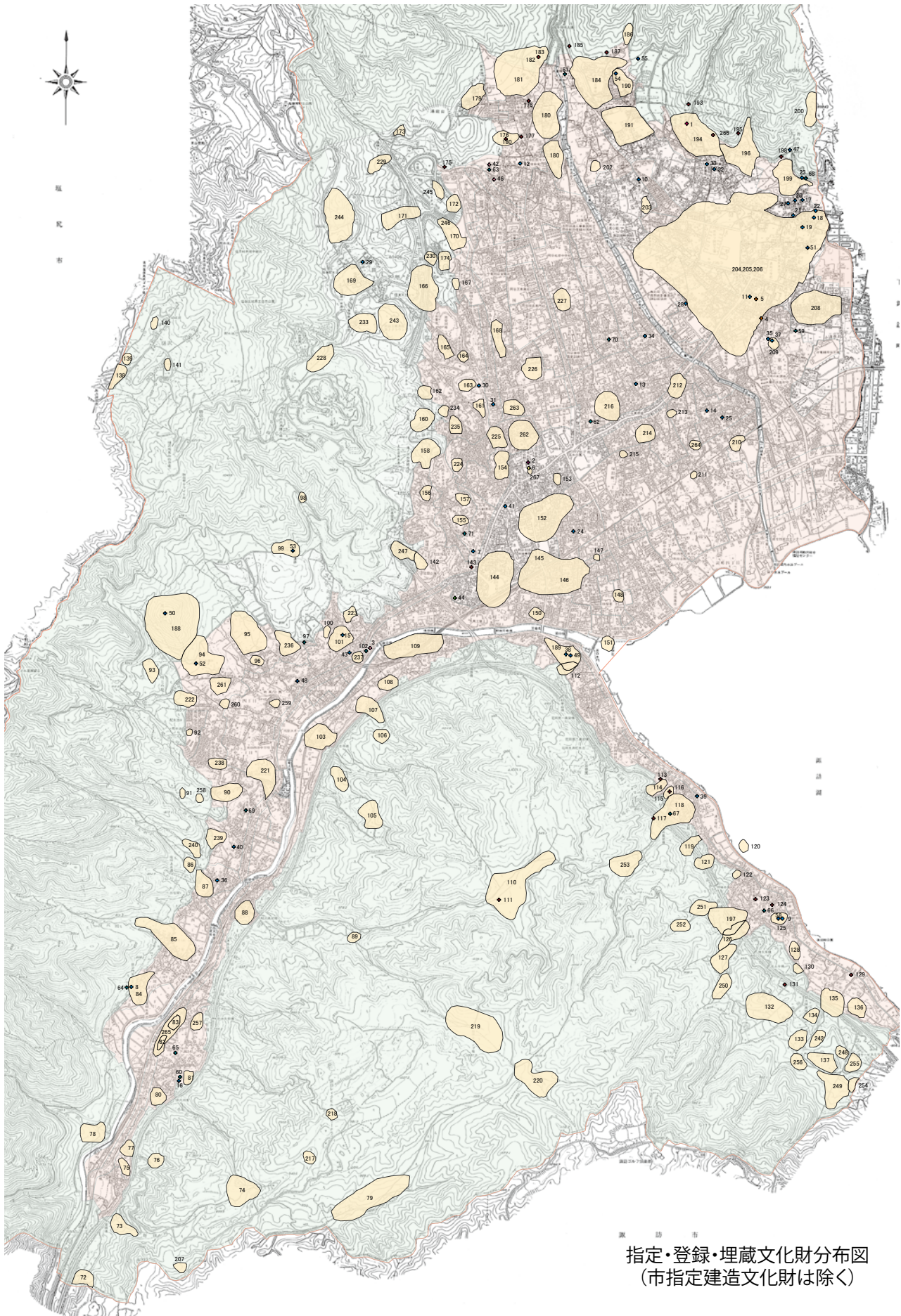




指定・登録・埋蔵文化財分布図
(市指定建造文化財は除く)

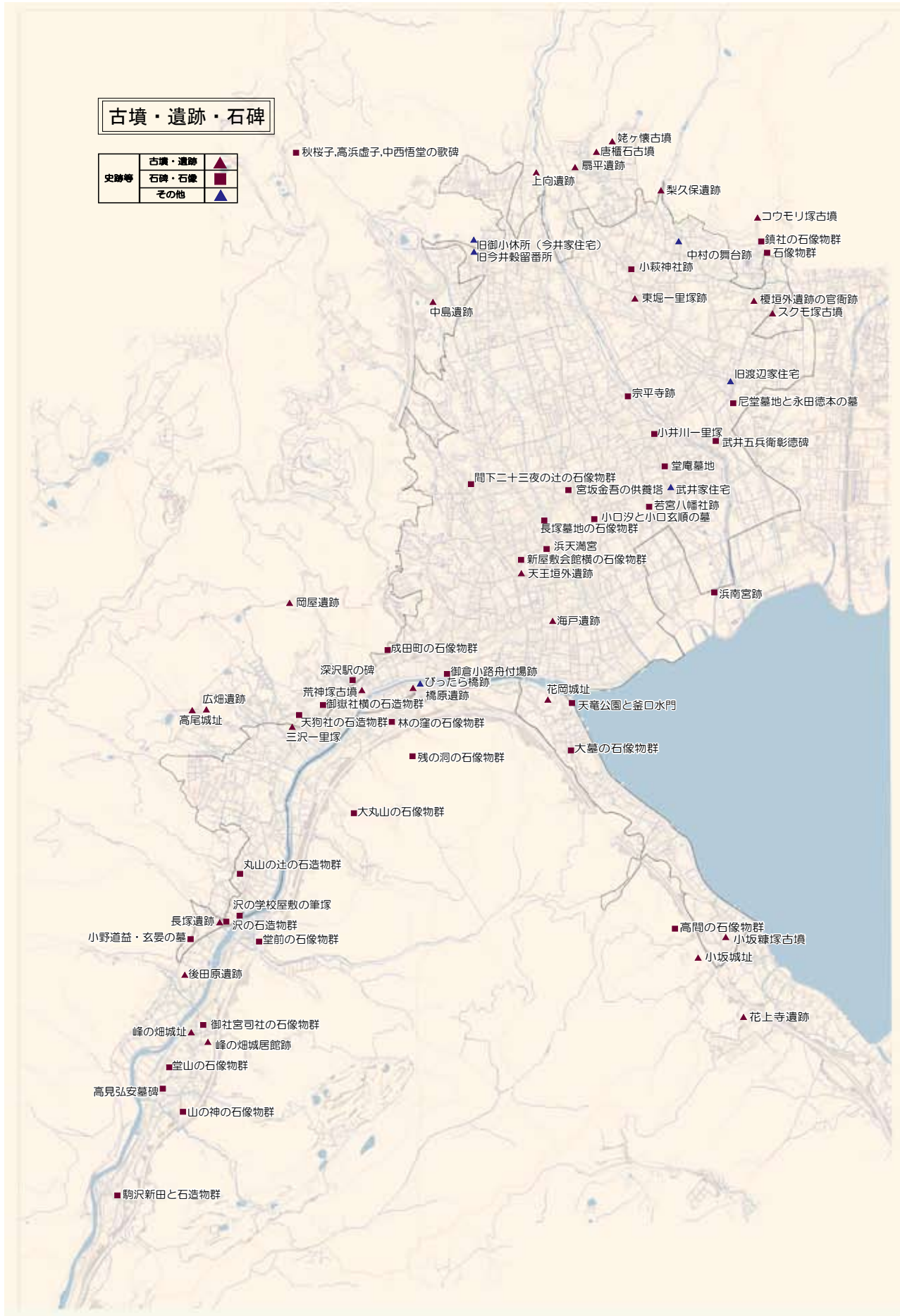
文化財等一覧表

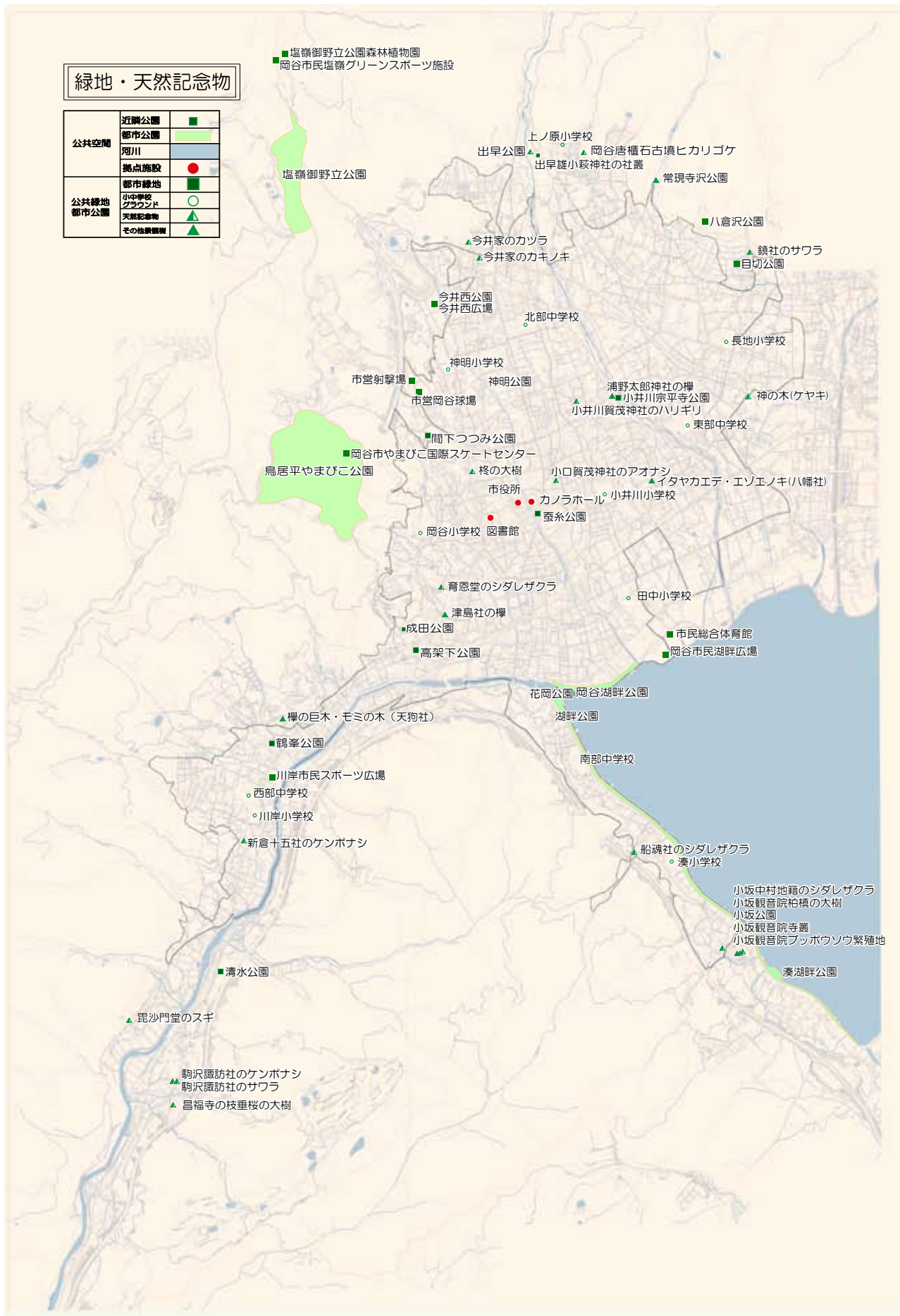
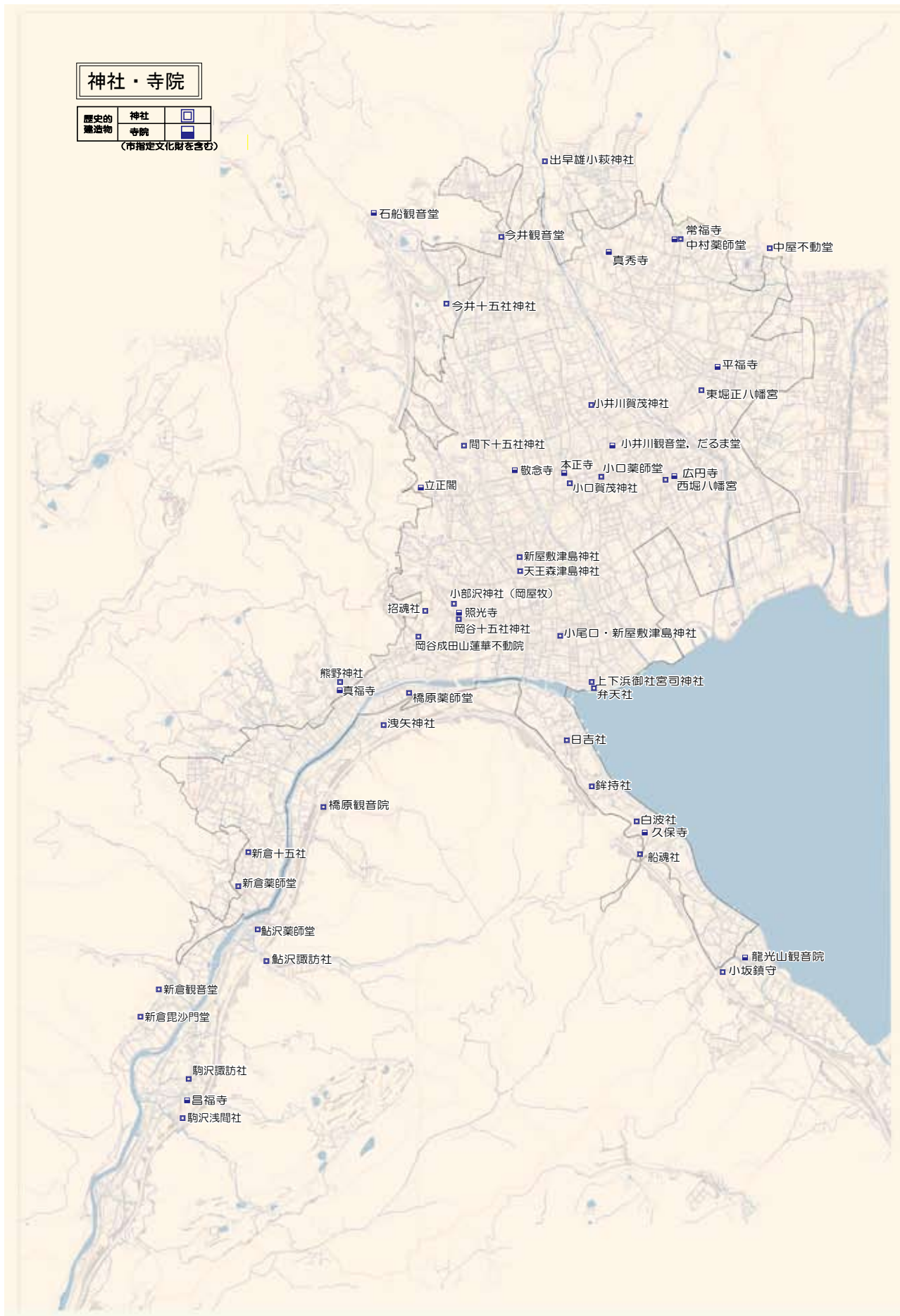
分類	番号	名 称	種類・規模等
有形文化財	1	瓶久保遺跡	縄文時代
	2	顔面把手付深鉢形土器	縄文時代
	3	中央印刷株式会社 社屋	明治 43 年
	4	旧渡辺家住宅	
	5	木造阿弥陀如来坐像	
	6	振永資料コレクション	銅糸器械類等 192 種、442 点
	7	木造拝庵不動尊坐像	享和 2 年(1802 年)
		木造大日如来坐像(金剛界)	正徳 3 年(1713 年)
		木造大日如来坐像(胎藏界)	明応 3 年(1494 年)
		厨子入木造千手観音・不動明王・多聞天立像	
		木造弘法大師坐像	
		木造仁王立像(阿・吽)	
		五点阿字軸	文化 4 年(1807 年)
		大日如来軸	文化 4 年(1807 年)
		木造興教大師坐像	室町時代
		石造仏羅陀山地蔵菩薩坐像	文政 10 年(1827 年)
	8	木造聖観音立像	
	9	木造里沙門天立像	室町時代
		木造十一面観音坐像	永正 3 年(1506 年)
		木造寶頭盧尊者坐像	室町時代
		観音堂の勝口	明応 5 年(1496 年)
		木造大日如来坐像(金剛界)	
	10	木造不動明王坐像	
		十六番神図幅	室町時代 絵画
		木造清涼大師坐像	江戸前期
		石造釈迦三尊仏	慶応 4 年(1868 年)
		石造西国三十三所観音	慶応 4 年(1868 年)
	11	木造大日如来坐像(金剛界)	
		木造十一面観音立像	
		木造日光菩薩立像	室町時代
		木造月光菩薩立像	室町時代
		木造聖観音坐像	江戸初期
	12	木造大日如来坐像	室町時代
		木造阿弥陀如来立像	江戸初期
		木造阿弥陀如来坐像	室町時代
		木造十一面観音坐像	江戸初期
		昌福寺の武田勝頼安堵状	古文書類
	13	木造吉祥天女坐像	享和 2 年(1802 年)
		九字の宝号軸	文化 4 年(1807 年)
		諸仏の軸	文化 4 年(1807 年)
		御岳座王大権現軸	享和 2 年(1802 年)
		不動明王付属文書不動宮殿勧化帳	天保 2 年(1831 年)
	14	木造大黒天坐像	享和 2 年(1802 年)
		木造阿弥陀如来坐像	文化 3 年頃(1806 年)
		木造西宮大神宮恵比須坐像	文化 3 年頃(1806 年)
		米寿の軸	文化 2 年(1805 年)
		丸心の軸	文化 3 年頃(1806 年)
	15	年徳の軸	文化 2 年(1805 年)
		御廻國中御府控帳	文政年間
		通力自在不動明王石碑付属文書 通力自在不動明王建立印	享和元年(1801 年)
		木造地藏菩薩立像	享和 2 年頃(1802 年)
		木造南無大師遍照金剛坐像	文化 3 年頃(1806 年)
	16	大峯三社大権現軸	享和 2 年(1802 年)
		木造文殊菩薩坐像	文化 3 年頃(1806 年)
		木造南無大師遍照金剛坐像	享和 2 年(1802 年)
		木造拝庵不動明王坐像	文化 3 年頃(1806 年)
		木造薬師如来坐像	文化 3 年(1806 年)
	17	木造大日如来坐像	文化 3 年(1806 年)
		名号軸	文化 3 年(1806 年)
		年徳軸	文化 4 年(1807 年)
		五智如来軸	文化 4 年(1807 年)
		三社大権現軸	文化 4 年(1807 年)
	18	名号軸	文化 4 年(1807 年)
		通力自在不動明王石碑	享和元年(1801 年)
		三点見足阿字軸	文化 4 年(1807 年)
		諸神の軸	文化 4 年(1807 年)
		木造寶頭盧尊者坐像	文化 4 年(1807 年)
	19	寶頭盧尊者像付属文書寶頭盧尊者様建立入用帳	文化 4 年(1807 年)
		宗平寺跡の板碑	
		永田徳本の監塔	
		沢の石幢	承応 4 年(1655 年)
		尼堂墓地の石幢	寛文 4 年(1664 年)
	20	花岡公園の石灯籠	元治元年(1864 年)
		小田井の鉦鼓	文化 4 年(1807 年)
		新倉薬師堂の鉦鼓	寛延 2 年(1749 年)
		高島藩寛文五年宗門御改帳・宗門五人総帳・人別帳	寛文 5 年(1665 年)

有形文化財	令井家住宅(令井御小休本陣) 板蔵	江戸時代中期 木造平屋建、茅葺
	令井家住宅(令井御小休本陣) 井戸	石積深さ6m 木造上屋付
	令井家住宅(令井御小休本陣) 表門	木造薬医門、鉄板葺
	令井家住宅(令井御小休本陣) 本蔵	土蔵造2階建、鉄板葺、真壁造、切妻造の屋根
	令井家住宅(令井御小休本陣) 木小屋	木造平屋建、鉄板葺
	令井家住宅(令井御小休本陣) 米蔵	土蔵造2階建、鉄平石葺、切妻造、置屋根形式
	令井家住宅(令井御小休本陣) 主屋	木造平屋建、鉄板葺、本棟造
	令井家住宅(令井御小休本陣) 水車小屋	木造2階建、鉄板葺、板壁、切妻造
	令井家住宅(令井御小休本陣) 中門	木造薬医門、銅板葺
	令井家住宅(令井御小休本陣) 文庫蔵	土蔵造2階建、鉄平石葺、切妻造、置屋根形式
史跡天然記念物	令井家住宅(令井御小休本陣) 屋敷神	木造平屋建、鉄板葺
	片倉家住宅主屋	18 世紀中頃 木造平屋建、茅葺
	片倉家住宅西の蔵	木造土蔵造2階建、鉄平石葺
	片倉家住宅文庫蔵	木造土蔵造2階建、鉄板葺、置屋根形式
	片倉家住宅味増蔵	木造土蔵造2階建、鉄平石葺
	片倉家住宅南の蔵	木造土蔵造2階建、鉄平石葺
	旧林家住宅	
	令井家のカキノキ	
	コウモリ塚古墳	
	三沢一里塚	
埋蔵文化財包蔵地	花園城跡	
	高尾城跡	
	スタモ塚古墳	
	広畑遺跡	
	岡屋遺跡	
	唐櫃石古墳・岡谷唐櫃石古墳ヒカリゴケ	
	姥ヶ横古墳	
	横川山の薨り石と泣き石伝説	
	川岸天竜河野諏訪明神入諏伝説の地	
	小坂観音院柏根の大樹	
	小坂観音院寺藏	
	小坂観音院ブッポウソウ繁殖地	
	神の木	
	昌福寺の枝垂板の大樹	
	出早塚小浜神社の社叢	
	小口賀茂神社のアオナン	
	令井家のカツラ	
	里沙門堂のスギ	
	駒沢諏訪社のサワラ	
	駒沢諏訪社のケンボナシ	
	小坂中村地蔵のシダレザクラ	
	船渠社のシダレザクラ	
	神社のサワラ	
	新倉十五社のケンボナシ	
	小井川賀茂神社のハナギ	
	有恩堂のシダレザクラ	
	六地在家	縄文時代、弥生時代、古墳時代
	追崎沢	縄文時代
	大ノ田 I	縄文時代
	横畠	弥生時代
	地替	弥生時代
	萬天原	縄文時代、弥生時代
	中ノ沢	縄文時代
	沢入	縄文時代、弥生時代、古墳時代
	原沢	縄文時代、古墳時代
	昌福寺裏	縄文時代
	雲山	縄文時代
	峯畑	縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世
	里沙門堂下	縄文時代
	後田原	縄文時代、弥生時代
	新倉長塚	縄文時代
	長塚	縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代
	結沢大塚	縄文時代
	松加保	縄文時代
	上垣外	先土器時代、縄文時代、弥生時代
	小淵日影	古墳時代
	ヤミノオ	縄文時代
	妙玉池	古墳時代
	広畑	縄文時代、弥生時代
	西除入	縄文時代、平安時代
	鬼戸	古墳時代
	塚の山古墳	古墳時代
	一ノ沢	縄文時代
	岡屋(おかのや)	縄文時代、弥生時代、古墳時代
	宮の上	縄文時代
	熊野神社境内	縄文時代
	荒神塚古墳	古墳時代
	志平	縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代
	追平	縄文時代
	神ノ沢	縄文時代、古墳時代、平安時代
	瓶久保	縄文時代
	経塚	縄文時代、古墳時代、平安時代
	喪矢	縄文時代、古墳時代、平安時代
	桶原	縄文時代、弥生時代、古墳時代
	須ヶ平	縄文時代、古墳時代

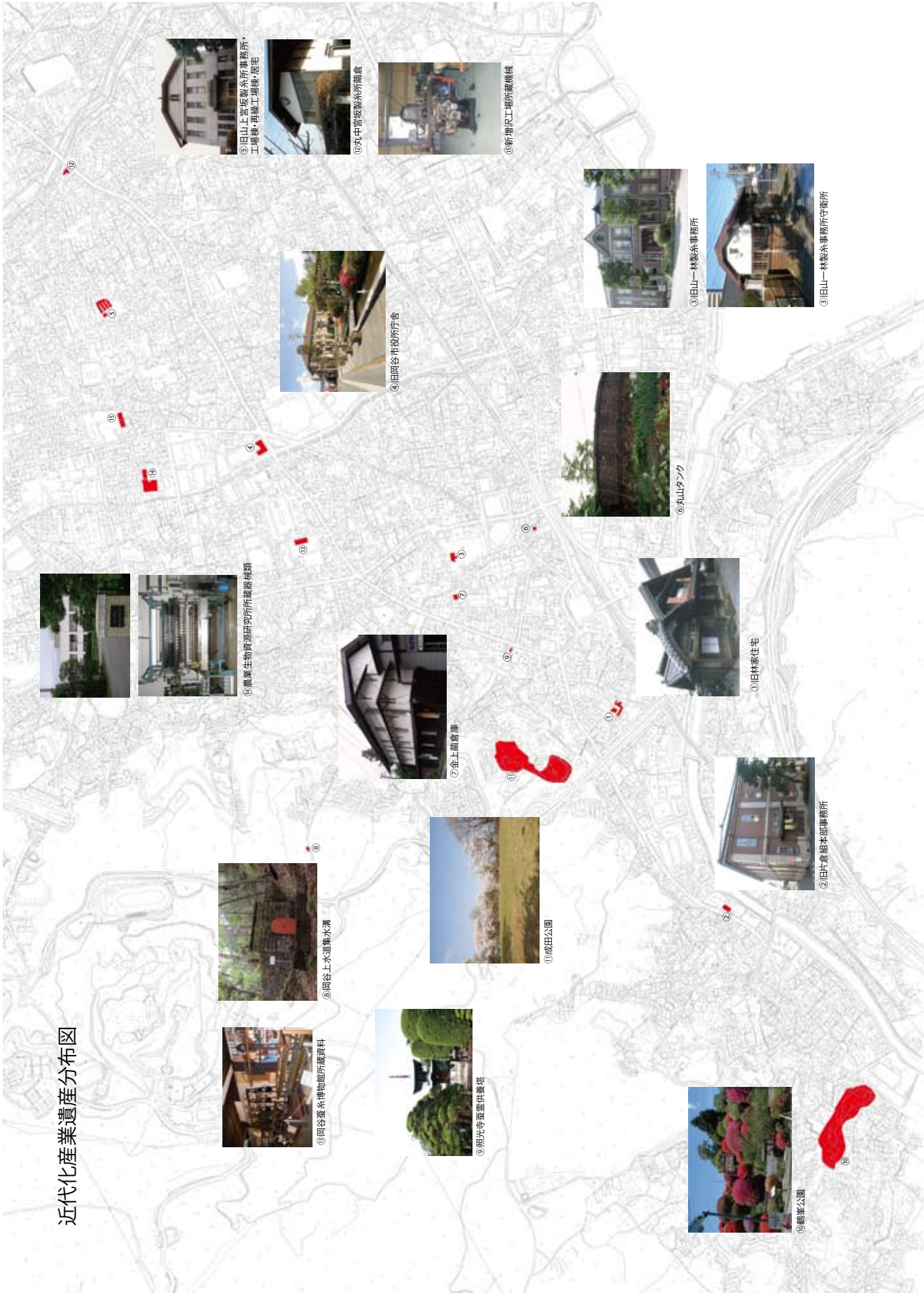
埋蔵文化財包蔵地	111	須ノ平糠塚古墳	古墳時代
	112	城日向	古墳時代、中世
	113	白浪神社古墳	古墳時代
	114	八重場沢	縄文時代
	115	蘆澤山	縄文時代
	116	久保寺古墳	古墳時代
	117	大塚古墳	古墳時代
	118	小田井	縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世
	119	小手場沢	弥生時代、古墳時代
	120	満田沖	縄文時代
	121	満田台	弥生時代、古墳時代
	122	神場木	古墳時代、中世
	123	小坂糠塚古墳	古墳時代
	124	日影古墳	古墳時代
	125	麴香山	縄文時代
	126	御頭屋敷	縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世
	127	矢垂	縄文時代、弥生時代、古墳時代
	128	小坂上垣外	縄文時代
	129	角帽子石古墳	古墳時代
	130	円通久保	古墳時代
	131	大林古墳	古墳時代
	132	花上寺	縄文時代、古墳時代、平安時代、中世
	133	安沢	縄文時代
	134	平山	縄文時代、弥生時代、古墳時代
	135	新井北	縄文時代、古墳時代、平安時代、中世
	136	新井南	縄文時代、古墳時代、平安時代、中世
	137	狐穴	縄文時代
	138	桶沢	縄文時代
	139	桶沢岩垂	縄文時代
	140	桶沢清水	縄文時代
	141	桶沢松田	縄文時代
	142	大久保	弥生時代
	143	菅宮古墳	古墳時代
	144	横道	弥生時代
	145	岡谷丸山	縄文時代、弥生時代
	146	庵戸	縄文時代、弥生時代、古墳時代、平安時代
	147	清水権現	弥生時代
	148	杏林製薬工場内	弥生時代
	149	釜口	弥生時代
	150	下浜	縄文時代
	151	牟天島	縄文時代
	152	沢王垣外	弥生時代
	153	新屋敷長塚	縄文時代、古墳時代
	154	岡下丸山	縄文時代、弥生時代、古墳時代
	155	小部沢	縄文時代
	156	月見ヶ丘	縄文時代
	157	滝ノ沢	縄文時代
	158	下リ林	縄文時代
	159	中谷原頭	縄文時代
	160	立正閣上	縄文時代
161	カヅギ	縄文時代	
162	花木	縄文時代	
163	岡下山ノ神	古墳時代	
164	樺上	縄文時代	
165	市宮球場南	縄文時代、平安時代	
166	西林	縄文時代	
167	神明町	縄文時代	
168	丸戸	縄文時代、古墳時代	
169	牛平	縄文時代、古墳時代	
170	今井十五社境内	縄文時代、古墳時代	
171	柳梅途	縄文時代	
172	中島	縄文時代、弥生時代	
173	栗沢		
174	糖棚		
175	今井丸山古墳	古墳時代	
176	菅松林古墳	古墳時代	
177	タワツロビ古墳	古墳時代	
178	長者の蔵古墳	古墳時代	
179	穴日向	古墳時代	
180	上向	縄文時代、弥生時代、古墳時代	
181	地獄沢	縄文時代、古墳時代	
182	地獄沢古墳	古墳時代	
183	今井山ノ神	縄文時代、古墳時代	
184	福平	縄文時代、古墳時代	
185	福平古墳	古墳時代	
186	長久保	先土器時代	
187	山ノ神古墳	古墳時代	
188	高尾城址	中世	
189	花岡城址	中世	
190	上ノ原	縄文時代	
191	上屋敷	縄文時代	
192	丸山辻	縄文時代	
193	塚屋古墳	古墳時代	
194	長久保	縄文時代、弥生時代、古墳時代、中世	
195	火燈古墳	古墳時代	
196	清水田	縄文時代、古墳時代、平安時代	
197	小坂城址	中世	
198	古塚古墳	古墳時代	

埋藏文化財包蔵地	199	目切	縄文時代、平安時代
	200	千森原	縄文時代、古墳時代
	201	常規寺長久保Ⅰ	縄文時代
	202	豊太郎垣外	縄文時代
	203	権現堂	縄文時代
	204	榎垣外	縄文時代、奈良時代、平安時代
	205	榎垣外	弥生時代、奈良時代、平安時代、中世
	206	榎垣外	縄文時代、奈良時代、弥生時代
	207	駒平	平安時代
	208	東町田中	弥生時代
	209	尼堂	縄文時代
	210	阿原神田	縄文時代、弥生時代
	211	清水池	縄文時代、弥生時代
	212	堀ノ内	縄文時代
	213	土器亀	弥生時代
	214	榎屋垣外	縄文時代、弥生時代
	215	赤惣垣外	弥生時代
	216	庄ノ畑	縄文時代、弥生時代
	217	太ノ田Ⅱ	縄文時代
	218	桑木畑	縄文時代
	219	梨平	縄文時代
	220	椿草平	縄文時代
	221	能登舟	古墳時代
	222	中島	縄文時代
	223	出頭	縄文時代、古墳時代
	224	出の洞	縄文時代
	225	陣海塚	縄文時代、平安時代
	226	郷田	縄文時代、古墳時代
	227	横道上	縄文時代
	228	間下権現沢	縄文時代
	229	長原	縄文時代
	230	今井大洞	縄文時代
	231	横川山	縄文時代
	232	常観寺沢Ⅱ	縄文時代
	233	大曲	縄文時代
	234	間下化木	縄文時代
	235	出の洞	縄文時代、弥生時代
	236	峯堂	弥生時代
	237	下屋敷	縄文時代
	238	中尾	縄文時代
	239	西垣外	弥生時代、平安時代
	240	神明平	縄文時代、平安時代
	241	横川山権沢	縄文時代
	242	安沢Ⅱ	縄文時代
	243	芥磨	縄文時代
	244	牛平北	縄文時代
	245	中島B	先土器時代、縄文時代
	246	膳棚B	縄文時代
	247	大久保B	縄文時代、平安時代
	248	狐穴日向	弥生時代
249	老盛久保	弥生時代	
250	越道	平安時代	
251	宮久保	平安時代	
252	小玉石	平安時代	
253	若宮	平安時代	
254	井揚	弥生時代	
255	井揚汐下	縄文時代	
256	安沢Ⅲ	縄文時代	
257	峰の畑城址居館跡	中世	
258	小洞狐久保	縄文時代	
259	日向畑	平安時代	
260	タノ木	平安時代	
261	五斗畑	縄文時代	
262	外畝	縄文時代	
263	北海戸	縄文時代	
264	神笠	縄文時代	
265	峰の畑城址	中世	
266	清水田古墳	古墳時代	
267	釜海戸	縄文時代	





近代化産業遺産分布図



岡谷市内の近代化産業遺産 15箇所一覧表

	名 称	概 要			所有者等情報	あらまし
		見 学	内 訳	所在地	企業・団体・個人名	
			不動産・動産			
1	旧林家住宅	見学可 おとな550円、こども250円、 団体10人以上おとな350円、こども100円	旧林家住宅（主屋、離れ、洋館、内蔵・穀倉・及び味噌蔵、外蔵（蔭蔵）	岡谷市御倉町	岡谷市	明治 11 年に創業した一山カ林製糸所の初代林国蔵の旧住宅。明治 30 年代に建てられ、40 年秋にほぼ完成した。林国蔵は開明社の年番社長をつとめ、生糸の品質管理システムを構築し、日本の製糸業発展の基を築く。住宅は主屋と離れの座敷、茶室、洋館にわかれ、主屋の南側には蔭倉庫の形式をとどめる土蔵が並ぶ。西洋装飾の芸術、「幻の金唐紙」と呼ばれる壁紙が張り巡らされている和室や欄間彫刻の希少価値は高い。
2	旧片倉組本部事務所	見学は外観のみ可、事務所に許可必要	旧片倉組本部事務所	岡谷市川岸	中央印刷株式会社	明治43年に建築された片倉組の事務所。本社が東京に移転をした後も本部事務所として初代、二代兼太郎の活躍の拠点となる。木造二階建て、瓦葺き（現在は銅版葺きに改修）で一階内部の洋風玄関、事務所はそのまの姿を残し、二階には和風の大広間を持つ。明治時代に造られたレンガ造りの数少ない製糸工場事務所として貴重であり、現在は中央印刷（株）の事務所として活用されている。
3	旧山一林組製糸事務所・守衛所	見学は外観のみ可能、火・土・日には16時まで絹工房見学の機織は可	旧山一林組製糸事務所・守衛所（岡谷絹工房）	岡谷市中央町	岡谷市	明治12年に創業した山一林組の事務所。建築は大正 10 年。二階建てで棧瓦葺きで、二階軒に切妻破風を付け、壁は煉瓦タイル張り。一階は広い事務所と応接室、宿直室、二階は座敷と広い講堂があり、上げ窓を規則的に設けているので室内は明るく開放的。現在は、岡谷絹工房として活用されている。
4	旧岡谷市役所庁舎	見学は外観のみ可、内部は消防庁舎として常時、使われている	旧岡谷市役所庁舎	岡谷市幸町	岡谷市	製糸家の尾澤福太郎が岡谷市制施行を記念して寄贈した庁舎。昭和11年の建築で、鉄筋コンクリート造りタイル貼り二階建てで、一階は、カウンターがめぐる庁舎の姿をほぼ残し、二階の貴賓室、市長室などはそのまま現存する。62 年まで市役所として使用され、現在は消防庁舎として使用されている。
5	旧山上宮坂製糸所	見学不可	旧山上宮坂製糸所事務所・工場棟・再繰工場棟・居宅	岡谷市加茂町	宮坂崇弘	創業は明治7年、ざぐり製糸にはじまり、大正～昭和の全盛期と戦後の復活期に中規模の製糸工場として発展した。昭和31年に閉鎖された後は、製糸機械メーカーなどの工場に転用され現在に至る。居宅は明治26～27年頃、事務所は昭和2年の建築。
6	丸山タンク	見学は数人以内の人数なら外観のみ可。階段、作物に気をつけること。	丸山タンク	岡谷市中央町	岡谷総郷	大正3年に市内間下南側の塚間川の西方一帯の製糸工場への給水のために建設された。天竜川付近にポンプを設置し、導管により水を揚げた。現在は、丸山と呼ばれる丘の上に外径12m、7.3m、3.1mの三重円筒型（壁の厚さ約61cm）の巨大な円筒形のレンガ積が残されている。
7	（株）金上蔭倉庫	見学可（外観のみ）	（株）金上蔭倉庫	岡谷市本町	株式会社金上	岡谷に残る数少ない蔭倉庫。建築年代は大正以前の古いもので、明治期と推定される。木造三階建、鉄板葺。入口の土戸が大きく、土蔵の延長としての特徴がある。蔭倉は、現在、金上（株）の倉庫として使用されている。
8	旧岡谷上水道集水溝	見学可（外観のみ）	旧岡谷上水道集水溝	岡谷市山手町	宗教法人十五社	岡谷の製糸業が最盛期を迎え、飲料水や工業用水の需要が増えるとともに下水道建設の要望が高まった。そこで昭和2年塩嶺山麓の滝ノ沢に集水溝、導入管、受水槽、分水槽が造られ、翌3年に給水が開始された。人々の生活を支えた集水溝跡として保存がされている。
9	蚕霊供養塔（照光寺）	見学可（外観のみ） 照光寺に許可を得ること	蚕霊供養塔（照光寺）	岡谷市本町	照光寺	岡谷の製糸業関係者が、蚕糸業の発展を祈念するために昭和9年に照光寺に建立した供養塔。高さは約13.2mで二重の堂塔建築様式。当初は木造銅葺であったが後で改修されている。基壇積石は約4.6m四方で、高さ約1.6mの美濃石を用いている。
10	鶴峯公園	常時、見学可 5月中旬頃はつつじ祭りを行っている。	鶴峯公園	岡谷市川岸上	岡谷市	昭和4年に二代片倉兼太郎がこの地に初代兼太郎の銅像を建設し、公園化され、昭和11年に旧川岸村に寄贈された。ツツジが植えられ整備され、現在では、中部日本有数のツツジの名所として知られている。
11	成田公園	4月桜の咲く季節の見学が良い。常時、見学可	成田公園	岡谷市成田町	岡谷市	大正6年、昭和天皇の立太子の記念に造られる。製糸工場の従業員の慰安の地としても利用された。製糸業発展に大きく貢献した黒沢鷹治郎の銅像がある。かつての製糸全盛の工場地帯に思いを馳せることができる。
12	丸中宮坂製糸所（蔭倉）	蔭倉は外観のみ見学可、ただし、会社の許可が必要、繰り糸の実際の見学は社長に用談下さい。	丸中宮坂製糸所（蔭倉庫）	岡谷市銀座	株式会社宮坂製糸所	昭和3年に創業し、今もなお諏訪式繰糸機を使った繰糸作業で操業する製糸工場。蔭倉が近代化産業遺産に認定された。
13	市立岡谷蚕糸博物館所蔵資料	常時見学可、月曜・祝日の翌日、年末年始以外は入館料おとな350円、こども150円、団体10人以上おとな250円、こども100円	「蚕糸資料コレクション442点」等	岡谷市本町	岡谷市	日本の製糸業近代化を担った歴史と精神を伝える製糸経営資料、写真資料や岡谷市鳥瞰図など40,000点を超える資料を収蔵しその一部を展示している。長野県宝に指定されている442点等の製糸関係資料が近代化産業遺産に認定された。
14	旧蚕糸試験場（現農業生物資源研究所）所蔵 機械類	見学は相談のうえ	多条繰糸機等	岡谷市郷田	独立行政法人農業生物資源研究所	昭和22年、農林省により蚕糸試験場岡谷製糸試験所が岡谷に設けられた。製糸技術の研究と新しい蚕品種育成のため購買判定用繰糸試験が行われ、日本における製糸技術研究の重要な拠点となった。車庫、門柱、宿舎などにわずかに創立「時の面影が残されている。製糸機械類のうち多条繰糸機等が近代化産業遺産に認定された。
15	新增沢工業株式会社所蔵機械	外観のみ見学可	横フライス盤	岡谷市加茂町	新增沢工業株式会社	前身は、多条繰糸機全盛時代に事業を展開した増沢工業。現在、日本に残る数少ない製糸機械メーカーとして操業中。製糸機械類をつくる機械の横フライス盤が近代化産業遺産に認定された。

第2章 景観特性と課題

1. 景観資源の把握

岡谷市は、湖と四季を彩る山々に囲まれた自然景観、山々から見渡せる眺望景観、寺社などに加えシルク岡谷の時代の近代化産業遺産などの歴史・文化的景観、中山道、鎌倉街道などの沿道の景観、諏訪湖、天竜川などの水辺景観など、様々な景観資源を有しています。これらの多様な景観資源を抽出し、以下の通り要素別に整理します。

①自然の景観

■緑地

- ・山岳、森林
- ・山麓、里山
- ・田園、農地
- ・公園、並木
- ・社寺林、景観樹

■水辺

- ・湖沼
- ・河川

②歴史、文化の景観（景色として現存する場所）

■史跡

- ・古墳、遺跡、城址

■歴史的街並み

- ・旧街道沿いの街並み

■歴史的建造物

- ・神社、寺院
- ・近代化産業遺産
- ・その他

③市街地の景観

■旧市街地

- ・商業地
- ・住宅地、集落地

■新市街地

- ・新興住宅地

- ・工業地
- ・インター、バイパス周辺

④施設の景観

■交通基盤施設

- ・鉄道、駅
- ・道路
- ・橋

■拠点施設

- ・公共、文化施設

⑤生活景、産業景のつくる景観

■生活景

- ・風物詩、伝統行事、市民の自主的な活動

■産業景

- ・工業、農業、漁業

⑥主要な視点場からの眺望景観

■高台からの眺望景観

■諏訪湖及び湖畔からの眺望景観

■市街地の視点場からの眺望景観

■眺望路（ビューコリドー）

2. 景観特性

（1）要素別景観特性

①自然の景観

岡谷市は都市計画区域 79.19 k m²のうち都市的土地利用は 20.4％で、残りの 79.6％は自然的土地利用となっており、そのうち約 7 割を山林が占め、豊かな自然に囲まれています。諏訪湖、天竜川沿いの平坦地に市街地が形成され、自然地形がつくる空間構造が、ほぼそのまま都市構造となっています。特に、諏訪湖を東南方向に有することが景観特性に大きな影響を与えています。

市街地ほとんどの場所から諏訪湖を前景に八ヶ岳を見ることができ、川岸山地と湊西山にはさまれた天竜川がつくる谷あいの景色が、岡谷市の「自然景観の特性」といえます。

ア) 緑地

■緑の骨格を成す山岳、森林

諏訪湖の西側の湊西山、北側に位置する長地、高ボッチ山地は市街地を囲む緑であり、塩尻峠から小野峠までの東山山地、川岸山地は天竜川の谷あいを取り囲み岡谷市の景観を形成する主要な景観要素です。また、これらの山地にある鳥居平やまびこ公園、塩嶺王城パークライン、塩嶺御野立公園は市街地から八ヶ岳、長地よりでは富士山までも一望できる視点場（眺望点）として位置づけられます。



鉢伏山



梨久保遺跡



夏明の田園風景



鳥居平やまびこ公園のラベンダー畑

■市街地を縁取る山麓、里山

河川が形成する扇状地に市街地が分布しますが、そこからの斜面には身近な緑があり里山として整備され、山麓の景観を形成しています。史跡、古墳も多く分布し、古道の鎌倉街道、中山道の峠道からの市街地、諏訪湖の視点場（眺望点）として位置づけられます。

■市街地に残る原風景の田園、農地

可住地の少ない岡谷市では住宅地の中に点在する形で田畑が残っています。長地の山麓沿い、駒沢、新倉、鮎沢の天竜川沿いには樹林と共に緑の豊かさを残す田園風景がありますが、共にその姿は徐々に失われつつあります。また、樋沢地区には農村風景があります。

■潤いと安らぎを提供する公園、並木

都市計画公園として整備された鳥居平やまびこ公園、岡谷湖畔公園の他、各所に公園や緑地が整備され市民が身近に自然とふれあう場として、潤いや安らぎを提供しています。都市計画道路の整備により沿道に設けられた緑地帯は年月を経て市街地の緑としての役割が大きくなっています。

■地域に密着した社寺林、景観樹

山麓から市街地を眺望したとき、市内に点在する森が見られます。これは神社や寺院の、鎮守の森、お寺の森と呼ばれる木立です。樹齢数百年を経た巨樹は天然記念物に指定されたものも多く、地域でもその保護に力を入れています。拠り所となる地域のシンボリックな存在です。

イ) 水辺

■象徴的な景観“諏訪湖”

諏訪市との境から湊小学校付近にかけては、湖周道路が整備され、湊小学校から横河川の水辺は岡谷湖畔公園として整備されました。横河川から下諏訪町境までは未整備地区ですが岡谷湖畔公園として都市計画決定されています。

湊側は湖周道路の岡谷茅野線の整備により、住宅地との連続的な環境は分断されてしまいましたが、湖周の散歩、ジョギング、親子連れの姿が多く見られます。

釜口水門付近は、昭和30年代当時、諏訪湖流域の治水のシンボルとして旧釜口水門が位置し、水門が新しくなった現在でも同様の存在感を漂わせ、諏訪湖の新たなシンボルともいえる湖上大噴水が設置され、小口太郎像や彫刻が立ち並び、湖周部には樹形の良い並木が散在し、良好な景観を形成しています。

横河川河口部周辺はコハクチョウの飛来地（日本の南限）があり、これに対応した遠浅護岸・人口なぎさが整備され、堤防沿いのシダレヤナギや桜と調和し、ササバモが回復しており良好な景観を作り出しています。

諏訪湖周は諏訪市、下諏訪町との連携が必要であり、水辺の整備、周辺の高さ制限、屋外広告物の規制など一体的な景観形成が課題です。



出早雄小萩神社



諏訪湖畔から八ヶ岳を望む



釜口水門



湖畔公園の人口なぎさ

■憩いの場として親しまれる河川

岡谷の先住民は農業の他に漁業を営んだことから天竜川沿いに集落ができました。また、農耕用水を確保するために十四瀬川を築造したり、武井五兵衛汐、小口汐などの水路も築造しました。また、シルク岡谷の時代には天竜川に水車を設置し動力とするなど、岡谷市のまちの成り立ちに欠かせない存在です。

横河川の土手の桜並木は観光ルートとしても活用され始めています。ラブリバー事業として親水施設が設けられています。

諏訪湖唯一の流出河川である天竜川は河川改修のために護岸がコンクリートブロック等で整備されています。このため親水性は失われていますが、駒沢付近では緑豊かな護岸も見られます。

下水道整備が進み、一時は生活排水で汚れていた河川の水は水質が良くなり、アマゴなどの魚の姿が見られます。

※ラブリバー事業：地域に密着し住民の生活に恵みを与えてくれる川として整備する事業



横河川の桜並木



横河川のラブリバー事業



駒沢の天竜川護岸

②歴史、文化の景観

岡谷市は縄文時代の遺跡が数多く発見され長い歴史をもつ地域です。山麓に残る史跡は自然景観と融合し豊かな景観資源として残っています。

産業面ではシルク岡谷から東洋のスイスとしての精密業へと見事な変貌を見せていますが、昭和初期から一気に景色も変わり、シルク時代の建物は数少なくなっています。これらを保存、活用するために近代化産業遺産の認定を受けています。

歴史、文化的な資源は当時のまちの暮らしぶりや面影を伝え、身近なまちの歴史を肌感じて偲ぶことができるなど、岡谷市固有の景観をつくりだす貴重な財産です。

ア) 史跡

■視点場となる古墳、遺跡、城址

古墳は長地や湊の山麓、川岸の天竜川沿いなどに分布しています。また、山麓にある梨久保遺跡、花岡城址は公園的に整備され、古墳とともに諏訪湖を見下ろせる視点場（眺望点）となっており、周辺の自然と共に残されたこれらの古墳、遺跡、城址はそれぞれ当時の文化、社会の姿を伝えています。



花岡城址

イ) 歴史的な街並み

■歴史的風景が残る旧街道沿いの街並み

市内には中山道、旧中山道、鎌倉街道などの旧街道があります。中山道沿いの宿場として栄えた地域の一部には昔ながらの景観を残している地域もあり、諸大名や明治天皇の休息所となった今井家は国の登録有形文化財として保存されています。

鎌倉街道は長地方面を通る東街道と湊方面を通る西街道があり、眺望景色が良く緑豊かな道です。



中山道

ウ) 歴史的建造物

■地域の拠り所となる神社、寺院

市内には鎌倉時代から鎮座する長地東堀の正八幡宮、西堀八幡宮をはじめ各所に多くの神社、寺院があり、その建物や敷地内の緑豊かな樹木は地域の精神的な拠り所であり、シンボルとなっていますが建物の経年劣化や樹木の高齢により維持など保存には難しい面があります。



今井家

■シルク岡谷の象徴となる近代化産業遺産

明治末期から大正、昭和にかけ、「シルク岡谷」の名を全世界にとどろかせていた岡谷市には日本の近代化に貢献した製糸関係の建造物や機械、資



西堀八幡宮

料が残されており、平成19年に経済産業省の「近代化産業遺産」の認定を受けました。旧製糸事務所や旧丸山タンク、重要文化財の旧林家住宅などの史跡の産業遺産認定は、国家の近代化を支えた産業に関連したこれらの遺産を活用した地域の活性化がねらいです。

また、「日本製糸業近代化遺産～日本の近代化をリードし、世界に羽ばたいた糸都岡谷の製糸資産～」として世界遺産への登録提案を行っており、文化財の適切な保存・活用の視点を踏まえつつ、まちづくりや地域づくりに総合的に活かしていくための取組が課題とされています。

シルクから精密への産業転換を経る中で、シルク時代の建造物の多くは姿を消してしまいましたが、残された建物は大切な景観資源となっています。

③市街地の景観

鎌倉時代に発生した集落は、水害からの避難、中山道の移り変わりなどに伴い移動し現在の区の配置にほとんどの村が収まっています。農耕産業からシルク産業に移り変わった時に、農家が一気に蚕糸業を始めたために入り組んだ街並みのまま市街地が形成されていきました。

精密業に移り変わった際にも、当時の蚕糸工場が転用されたため道路整備が遅れていましたが、現在では都市計画事業により街路樹を有した幹線道路が整備されています。農耕地区であった長地は、世帯分離によるドーナツ化現象により宅地化され、山の手の区画整理事業、国道20号バイパス事業などにより整備に伴い農業地は減少の一途です。

また、最近では狭い地域に各業務施設が集中する利便性から高層マンション建設が続き、中心市街地の景観は大きく変わりつつあります。

ア) 旧市街地

■シルク時代に形成された商業地

商店が発達したのは明治以降で特にシルクの時代から大きく増加しました。丸山橋通り、本通り（下諏訪辰野線）、中央通りと商店街が形成されましたが、大正から昭和にかけて製糸工場がピークを迎えたときには中央通りの店舗数が最も多く、本通りから移



旧林家住宅



旧丸山タンク

転する店舗もありました。

その後、自動車社会に移る中で既存商店街は衰退し、中心市街地の再活性化を図る岡谷駅前、中央町地区の再開発、童画館通りの街路整備などの事業が行われました。駅からの中央通りの約半分は地元出身の童画家武井武雄の童画をモチーフとした景観形成住民協定が結ばれて生まれ変わりましたが、時代の変遷の中で二つの再開発ビルのキーテナントが撤退し、中央通りの北半分に点在する昔の面影を残した店舗は活用されていないものが多い状況です。

■江戸時代から続く住宅地、集落地

旧市内の各所には、シルク時代の面影を残す住宅が残っており、メイン通りから脇にそれた地域には古い建物、蔵、生け垣がある集落があります。

湊地区は旧道沿いに昔の面影を残した住宅が残っており、諏訪湖岸であった証となる石積みとともに潤いある住宅地を形成しています。

川岸地区は古道沿いに建ち並ぶ家並みが現在も落ち着いた景色をつくり、残された田園風景と調和した街並みとなっています。

長地地区は農村の原風景が見られる地域が残っていますが、宅地化や建て替えが進み、その風景は徐々に失われつつあります。

集落地の道路は幅員も狭く、曲がりくねった道



湊地区の板塀、石積みのある街並み



童画館通り



中央通り



駅前再開発ビル



旧市内に残るレンガ造りの蔵

ですが、人が歩きながら景色の変化を楽しめる空間となっています。

イ) 新市街地

■新興住宅地、インターチェンジ、バイパス周辺
郊外の農業地区は宅地化され新興住宅地となっていますが、小規模開発が多いことからスプロール化が進んでいます。

区画整理で開発された地域は道路が整備され緑に配慮した街並みが形成されつつあります。

新しい住宅地はそれぞれの住宅が個性的なデザインで建築されているため、建物としての統一感はありませんが、ガーデニングなどにより潤いある地域が形成される傾向にあります。

岡谷インターチェンジ、国道20号バイパス周辺は現在のところ大規模な施設の建設はなく、良好な景観が保全されています。諏訪湖を見渡せる地域だけに今後の開発が懸念されます。

④施設の景観

鉄道や高速道路、幹線道路網などの交通基盤施設の整備は、市街地の発展に寄与していますが、一方で市街地の景観に大きな影響を与えています。河川などの水系と共に岡谷市の景観の骨格に大きく係わるため、連続性のある線的な景観要素といえます。また、中心市街地及びその周辺に分布する公共・文化施設は、拠点性のある点的な景観要素です。

ア) 交通基盤施設

■街の顔、交流拠点となる鉄道、駅

明治38年の鉄道（現在のJR中央東線）の開通とともに岡谷駅が開業しました。岡谷市を東西に走るJR中央東線は、中心市街地を南北に分断していましたが、鉄道の高架により交流はスムー



田園風景、火の見やぐらが残る川岸新倉区



新しい街並みとなった駅南区画整理地区



宅地開発が進む中点在する
長地地区の田畑



眺望景観が保全されているバイパス付近

ズになりました。市街地を走る鉄道は街中の景観の象徴でもあります。電車からの視線も高いため鉄道から見る風景（諏訪湖、山麓、市街地）も岡谷市の景観を印象づけているものです。

■街並み形成の骨格となる道路

岡谷市の幹線道路は岡谷インターチェンジの開設とともに大幅に変わりました。丸山橋線から岡谷茅野線は市街地から湊湖岸へと続きます。岡谷駅南土地区画整理事業において改良された丸山橋の立体交差と田中線、塚間川沿いを走る中道町線、同じく南北を走る東堀線の整備など幅員が広く歩道、街路樹がある道路が整備されています。

県道下諏訪辰野線の整備も進んでいますが、道路の幅員が広くなり、車両交通が改善されることで、両側の地域の交流が分断されています。

これらの道路整備の進展は沿道の景観に大きな変化をもたらしています。

■ランドマークであり、眺望点としての橋

横河川の土手の桜は観光名所となり多くの人々が訪れており、橋は桜並木を楽しめる場所です。天竜川にかかる橋からの景色は川の大きさを感じ取れます。

河川にかかる橋は、水辺、道路などから歩行者・運転手の目に留まりやすく、土木構造物として本市の景観形成に大きな影響を与えています。

また、長野道の高架橋は市街地にかかる高さ60mの橋で、交通の分岐であるジャンクションとともに岡谷市のシンボリックな景観施設です。



景観の象徴でもある JR 中央東線高架



住民により花壇が整備される丸山橋線



歩道、街路樹の整備が進む下諏訪辰野線



アーチトラスが特徴の釜口橋

イ) 拠点施設

■公共、文化施設

市庁舎、カノラホールを中心に形成される行政文化ゾーン、水辺体育地区としてしてされた市民総合体育館周辺、公園が整備された図書館など地域の象徴となる公共・文化施設や学校建築は、敷地面積が広く建物の大きいため、周辺のまち並み景観を先導する役割を担っています。また、市民を含め不特定多数の人の目にふれる機会が多いため周辺整備の配慮が必要です。



庁舎と一体的に整備されたカノラホール

⑤生活景・産業景がつくる景観

人々の活動や生活景、農業などの生産活動に代表される産業景

まちなかの賑わいやコミュニケーション活動、季節の風物詩や伝統行事は、身近な「生活景」として、また、農林漁業や伝統産業も「産業景」として、まちに彩を添え、魅力的な景観をつくっています。

ア) 人々の活動や生活景

■風物詩、伝統行事、市民の自主的な活動

7年に一度の御柱祭をはじめ、地域の寺社では伝統的な祭りや行事が行われています。岡谷太鼓祭り、だるま祭り、きつね祭り、とうろう流し・花火大会など季節ごとの行事があり、そこに多くの人々の賑わいのある風景が見られます。また、市街地では賑わいを創出するために各種の新しいイベントが開催されています。



昭和44年から続く岡谷太鼓まつり



古いだるまを焼いて供養するだるま祭り

イ) 工業、農業などの生産活動に代表される産業景

■工業から生まれる産業景

岡谷市はシルク岡谷から一変し精密工業都市となり、シルク時代の大きな工場用地がそのまま精密工場へ転換したため、市内には大規模な工場も見られます。また、下請け業としての部品工場も

多く、工業都市として形成されました。大規模な工場は周囲への配慮の中で緑地による緩衝帯を設置しているものもあります。

現在は、土地価格の問題などから工場の転出が目立ち、いくつかの大規模な敷地は商業施設として利用されています。駐車場への出入り口確保などのために、景観への配慮が難しい場所となっています。また、空き地も増加傾向にあり、連続した街並みの維持が課題となっています。

■農業、漁業、林業から生まれる産業景

宅地化が進む中で岡谷市の農地は減少の方向にありますが、市街地では部分的に農地が残り昔ながらの農作業風景を見ることが出来ます。長地の山麓、川岸地区の河川沿いなどにはまとまった農地があり、古い家並みとともに原風景が残っています。

漁業は後継者が少なく、諏訪湖に多く見られた網イケスもほとんどなくなりました。舟付け場も諏訪湖の護岸改良に伴い、木杭からコンクリートに整備され昔の面影はなくなっています。投網漁の風景を見られる機会は少なくなりましたが、ワカサギ釣りは趣味としてのブームもあり秋から冬にかけては多くの釣り人が湖周や釣り船で見られます。

林業は盛んではありませんが、平成18年の豪雨災害を契機に植林管理等の重要性が見直しされ、市民の手により針葉樹から広葉樹への植林も行われています。このような里山の管理は、山の自然景観に大きな関わりを持てきます。



諏訪湖の花火ととうろう流し



緑地帯が広い市内の工場



諏訪湖での漁業風景は減りつつある